

成長投資ガイドンスの要点：「比率」から「量」の価値創造へ

価値創造の新たな共通言語
「EP (エコノミック・プロフィット)」

比率 (ROE)



量 (EP)

$$EP = \text{投下資本} \times (ROIC - WACC)$$

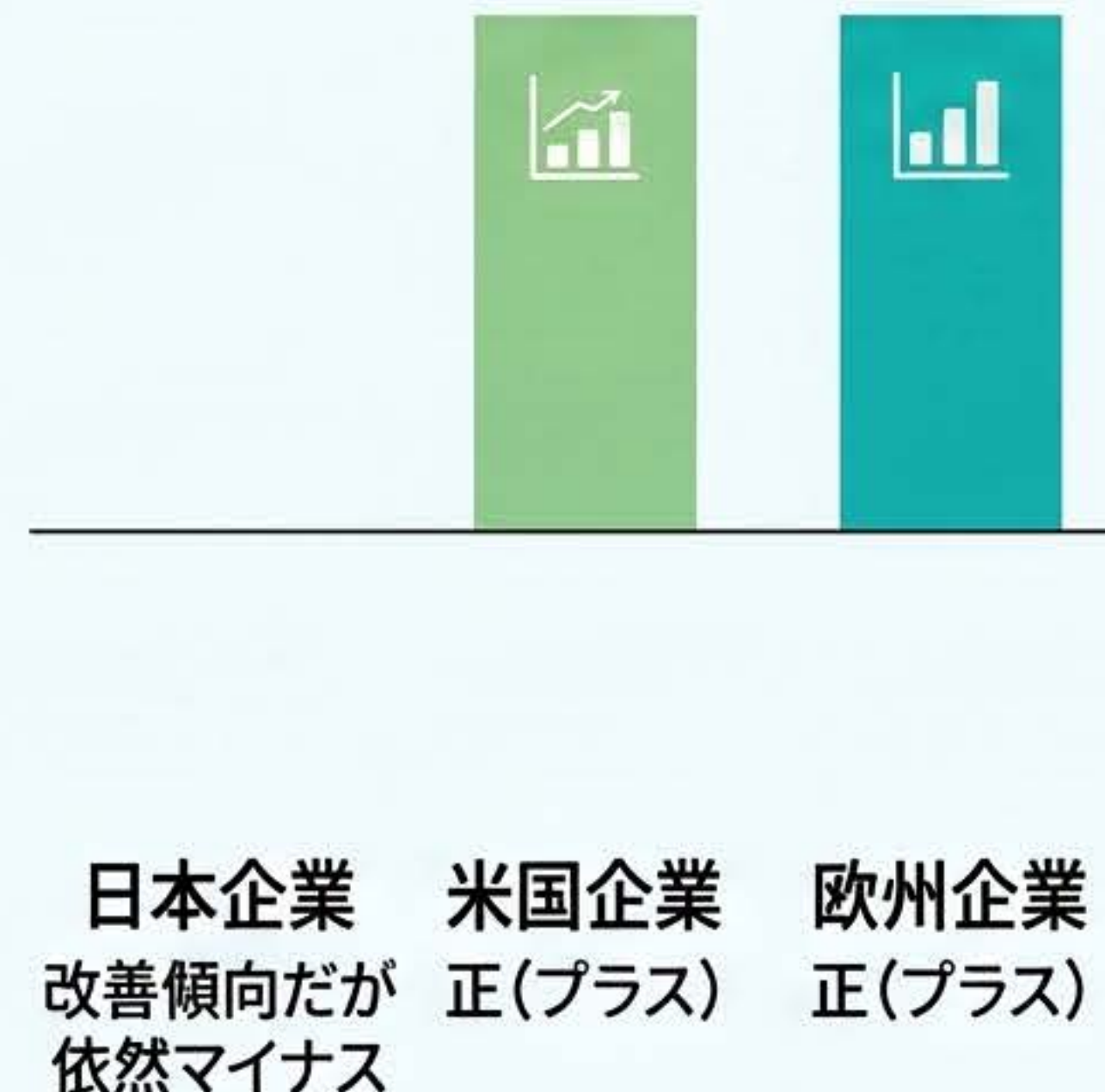
- 資本コストを差し引いた後の「付加価値の総量(面積)」の最大化を重視します。
- この経済的付加価値が、将来の質上げや再投資、ステークホルダーへの配分の原資となります。
- 「規律ある成長投資」の再定義
単なる支出ではなく、資本コストを上回るリターンが見込まれる投資を指します。

日本企業の収益性の現状

粗利率 (平均)



EP (経済的付加価値)



企業と投資家に求められる「行動変容」

企業

企業：3～5年の
「成長の道筋」と言語化



- 1 資本配分の優先順位を明確に
- 2 投資のリターン根拠と時間軸をセットで説明

投資家

投資家：形式的な
「ROE足切り」からの脱却



セーフハーバーの設定

大胆な投資による一時的な利益低下を許容する「セーフハーバー」の設定が期待されます。

4象限フレームワークによる 現在地の可視化

PBR1倍・ROE8%を基準に分類し、各企業の成長ステージに応じた対話を促進します。

